

## 3D システムズ(DDD)

サプライチェーン断絶リスクの認識普及。3D印刷技術で製造現場近くでの部品供給確保の需要拡大の恩恵へ

ニューヨーク | 特殊テクノロジー機器 | 業績フォロー

BLOOMBERG DDD US | REUTERS DDD.N

- 2020/12期3Q(7-9月)は、売上高が前年同期比13.0%減、純利益は赤字幅拡大だが、のれんの減損損失の影響を除く調整後純利益は赤字幅縮小。
- 非中核事業の売却とともに担保付優先タームローン期限前返済など財務改善と事業の選択と集中を進め、4Q(10-12月)は業績改善の見通し。
- コロナ禍を契機にサプライチェーン断絶リスクの認識が広がった。3D印刷技術を使い製造現場近くで部品供給を確保する需要増が恩恵となろう。

### What is the news ?

11/5発表の2020/12期3Q(7-9月)は、売上高が前年同期比13.0%減の1.35億USD、純利益が前年同期の▲1,680万USDから▲7,290万USDへ赤字幅拡大。ヘルスケア部門は増収だったが、インダストリアル部門の減収が響いた。また、コロナ禍による事業環境悪化に伴うのれんの減損損失の影響を除いたNon-GAAPの調整後粗利益率は、減産のためサプライチェーンの間接費を吸収できなかったことが響き同0.9%ポイント悪化の43.5%。一方で、調整後純利益はコスト削減効果により前年同期の▲450万USDから▲410万USDへ赤字幅が縮小した。前四半期比は、顧客事業活動がコロナ禍の最悪期から反発したことを受けて20.5%増収、調整後純利益が▲1,510万USDからの赤字幅縮小へ改善した。

財務面では9M(1-9月)の現金増減額が前年同期の1,762万USDから▲5,835万USDへ赤字転落となったが、イスラエル子会社のシマトロン、およびコンピュータ支援製造(CAM)のGibbsCAMソフトウェア事業を非中核事業として売却交渉を進めたなか、今年1/1に売却が完了。6,400万ドルのキャッシュ・インとなった。

部門別の売上高は以下の通り。①ヘルスケア部門は、前年同期比6.1%増の5,980万USD、前四半期比では約20%増。歯科市場が堅調に推移した。②インダストリアル部門は、前年同期比23.8%減の7,530万USDだったが、前四半期比では約20%増だった。

### How do we view this ?

1/7に発表した2020/12期4Q(10-12月)の業績見通しは、売上高が前年同期比3-7%増の1.70億-1.76億USD(市場予想1.39億USD)、営業利益が▲860万-+50万USD(同▲1,650万USD)。また、ヘルスケア部門、インダストリアル部門ともに前四半期比20%増収を継続する見通し。非中核事業の売却に伴い、全ての担保付優先タームローンの期限前返済、および時価での新株発行・売出に係るATMオフリング・プログラムの停止といった財務改善を進め、高採算事業への事業の選択と集中を進めている。

コロナ禍を契機として、製造業のグローバル・サプライチェーンが断絶するリスクが認識されるなか、製造プロセスのデジタル化に伴って製造現場に近いサプライヤーが3Dプリンティング技術を取り入れて部品を製造することでサプライチェーンに柔軟性を持たせることが重要との認識が経営者間で急速に広まりつつある。更に、航空宇宙・防衛セグメントで部品に係る高精度かつ膨大な3D印刷需要が見込まれるなど、3Dプリンティング市場の先行きは明るいと見えよう。

### 業績推移

※参考レート 1USD=104.98円

事業年度	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12F	2021/12F
売上高(百万USD)	646	687	629	550	570
当期利益(百万USD)	-66	-45	-69	-134	9
EPS(USD)	-0.59	-0.41	-0.61	-1.14	0.02
PER(倍)	-	-	-	-	1,943.00
BPS(USD)	5.39	5.00	4.44	3.79	3.86
PBR(倍)	7.21	7.77	8.75	10.25	10.07
配当(USD)	0.00	0.00	0.00	-	-
配当利回り(%)	0.00	0.00	0.00	-	-

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(USD) - (予想はBloomberg)  
 終値(USD) 38.86 2021/2/2

### 会社概要

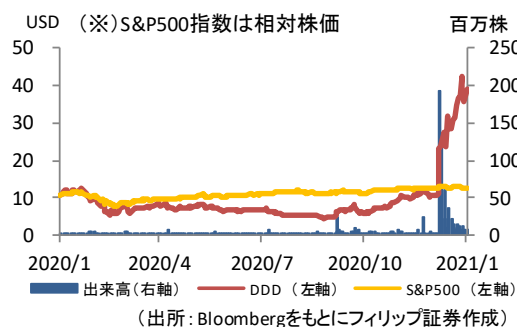
1986年設立の立体画像メーカー。世界で初めて3Dプリンターを製品化した企業であり、3Dプリンティングおよびデジタル製造ソリューションを提供している。樹脂、ナイロン粉末、金属、石膏などのマテリアルをサポートした幅広いラインアップで様々な造形ニーズに対応しており、3Dプリンティング市場では世界首位である。

従来の加工技術の基本的な考え方が材料を除去することで造形することにあるのに対し、同社がデジタル製造で取り入れる「付加製造(Additive Manufacturing)」技術とは、製造する物体の3Dモデルデータを垂直方向で微細にスライスし、その断面の形状に合わせて一層ごとに材料を積み重ねることで物体を造形・製造する技術である。

同社の売上は、顧客別セグメントでは、医療や歯科を主力とする「ヘルスケア部門」、およびその他の幅広い業界・産業にまたがる「インダストリアル部門」から構成される。製品別セグメントでは、「プロダクト」と「サービス」から成る。

### 企業データ(2021/2/2)

ベータ値	1.69
時価総額(百万USD)	4,824
企業価値=EV(百万USD)	4,824
3ヵ月平均売買代金(百万USD)	275.1



### 主要株主(2021/2)

1.ブラクロック	15.71
2.VANGUARD GROUP	9.60
3.インベス	6.87

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

### リサーチ部

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp  
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘  
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。